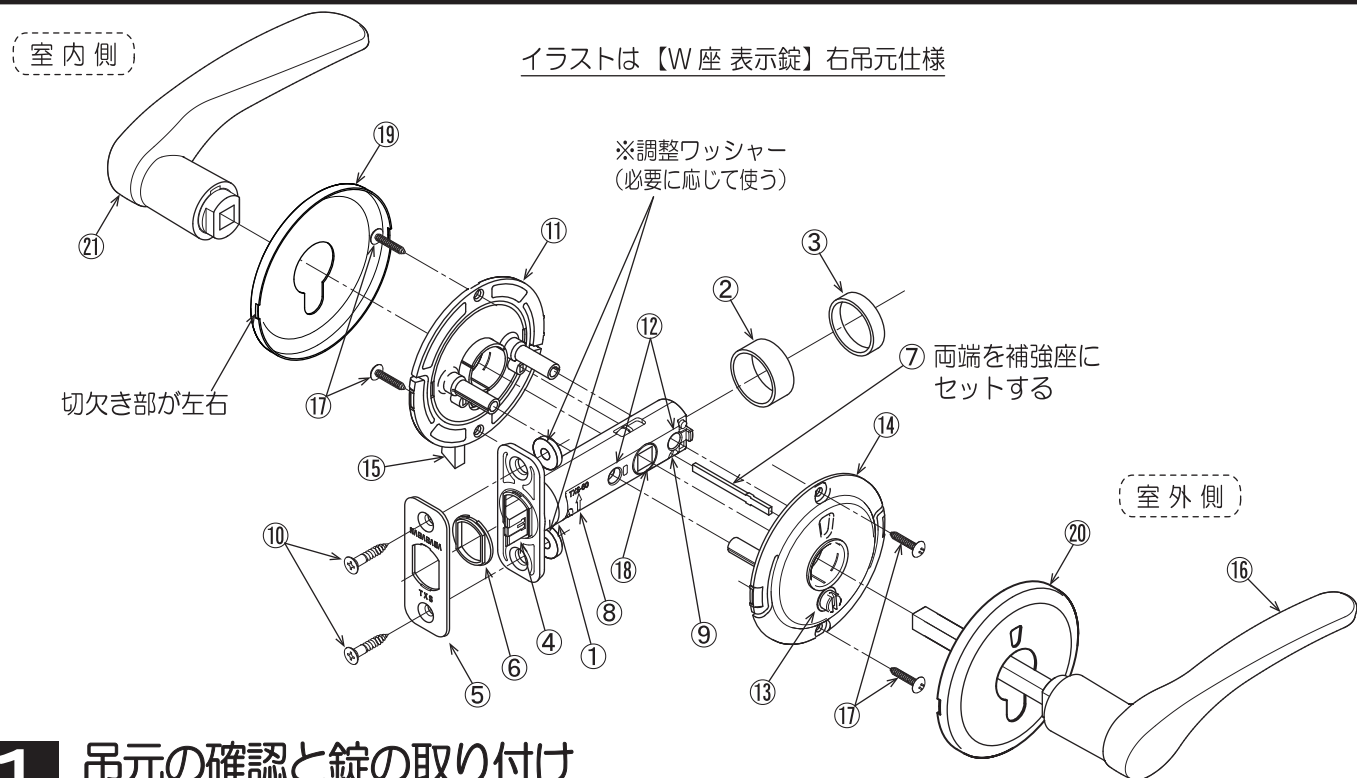


※ 締め付けの際は、必ず手動ドライバーをご使用ください。電動ドライバーは使用しないでください。
ねじ穴の破損および錠・座本体などを傷めるおそれがあります。
※ 取付ねじ等は、しっかりと固定し飛び出しのないように取り付けてください。



1 吊元の確認と錠の取り付け

- 錠①の筒が入る扉の穴径がφ24 mmの時は、φ24 リング②③を錠に取り付けます。
右上『B：φ24 リング取り付け方法』を参照し、取り付けてください。
※ φ24 リングを取り付けた場合は、25 mm幅フロント板をします。
- 「左吊元」の場合は、錠①のラッチボルト④を廻してあわせてください。
- フロント板⑤にラッチブッシュ⑥をセットします。
※ 25 mm幅フロント板を使用する時は、22.5 mm幅フロント板からラッチブッシュ⑥を外して取り付けます。
- 錠①を矢印⑧を上向きにして、扉加工部に差し込みます。
- 錠①とフロント板⑤をあわせて、固定ねじ⑩2本で取り付けます。
※ 調整ワッシャーはフロント板が扉の彫込に埋まってしまう場合にご使用ください。

2 座の取り付け

- 表示錠・間仕切錠の時は、ロックバー⑦を錠のカム穴⑨に差し込みます。右上『D：ロックバーの差し込み』を参照し、取り付けます。
- 補強座 室外側⑭の脚部を錠ガイド穴⑫に差し込みます。(表示錠・間仕切錠の時は、キーブラグ溝⑬は縦向き)
- 補強座 室内側⑪の脚部を補強座 室外側⑭の脚穴へ差し込みセットします。(表示錠・間仕切錠の時は、サムターンツマミ⑮は縦向き)

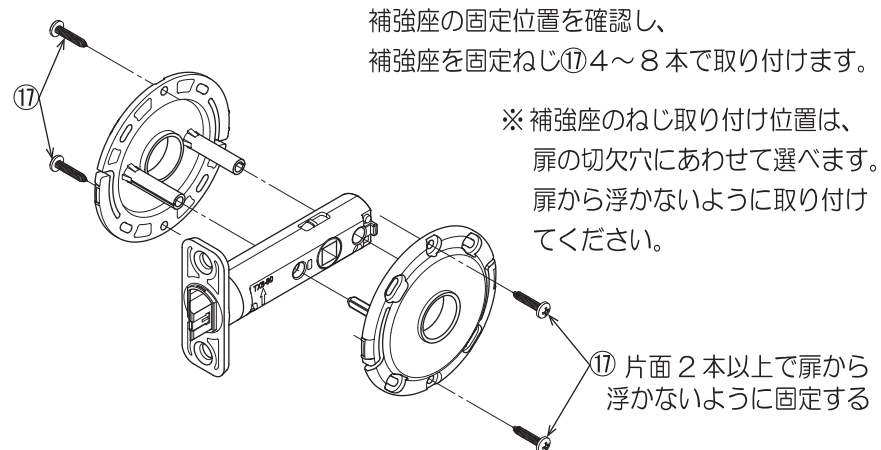
⚠ 角芯棒付レバーハンドルを仮セットし、錠が正常に作動することを必ず確認してください。
補強座の固定位置が確認できます。固定位置がずれると、レバーハンドルの動きに支障がでることがあります。

- (表示錠・間仕切錠の時は) 補強座を固定ねじ⑰4本で取り付けます。
(空錠の時は) 右上『A：空錠 補強座の取り付け方』を参照し、取り付けます。
- 仮固定のレバーをはずし、座カバー⑱⑲を嵌め込みます。座カバーの『切り欠き部が左右』に注意してください。

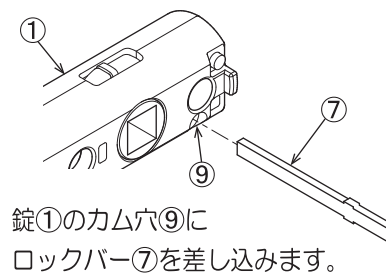
3 ワンタッチレバーハンドルの取り付け

- 角芯棒付レバーハンドル⑱を錠角穴⑱に差し込みます。反対側レバーハンドル⑲をセットしてください。
※ ハンドルセットは、軽く差し込むだけで固定されます。強く押さえ過ぎると動きに支障がでることがあります。
その時は右上『B：ワンタッチレバーの取り外し方』を参考にゆるめ、適正な位置にあわせてご使用ください。

A：空錠 補強座の取り付け方

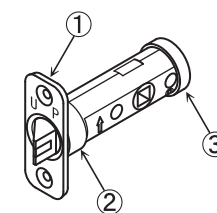


D：ロックバーの差し込み (表示・間仕切錠の場合のみ)



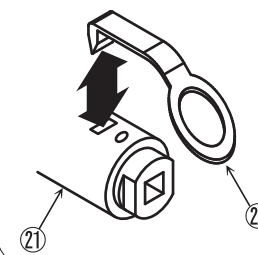
⚠ 扉厚により使用するバーの長さが違うため、バーにある扉厚刻印を確認して取り付けてください。

B：φ24 リングの取り付け方法

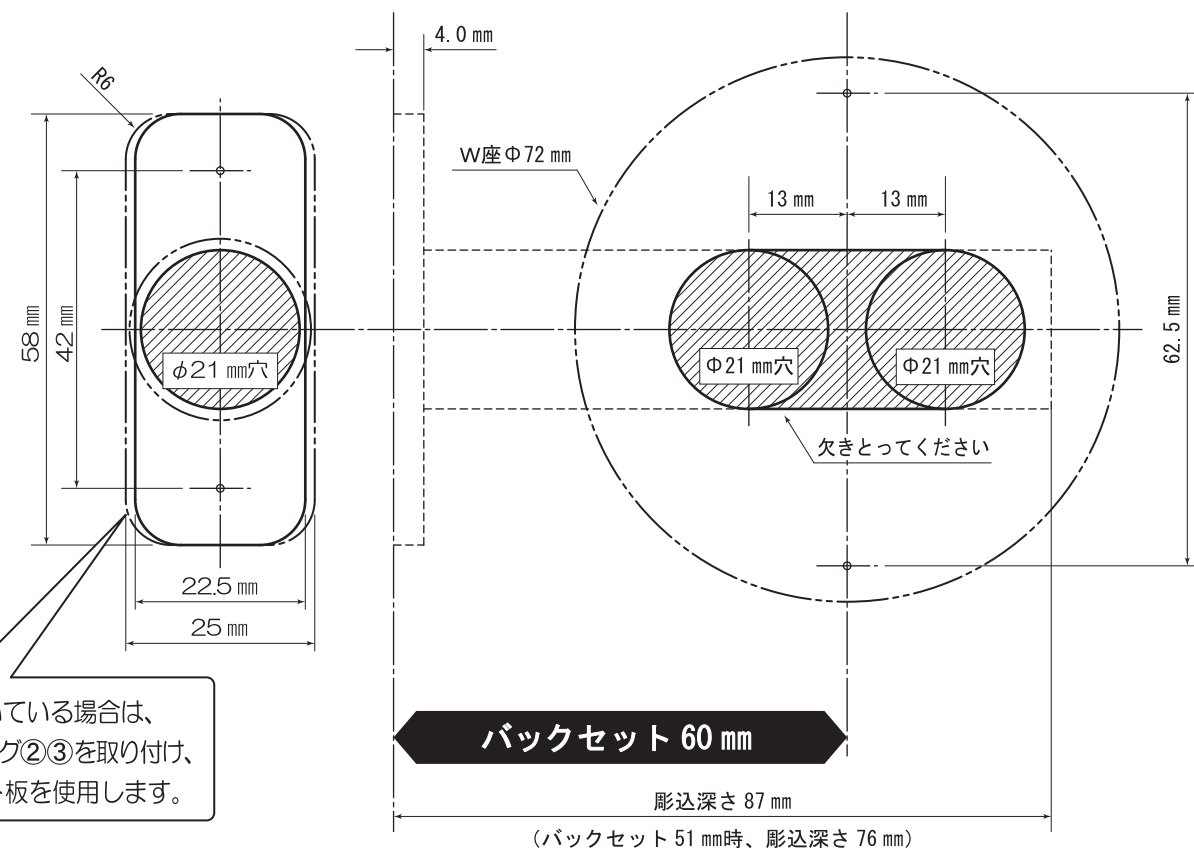


φ24 リング②は錠①の先端までしっかりセットし、φ24 リング③は錠①の後部にセットします。隙間がないように、はめ込みます。

C：ワンタッチレバーの取り外し方



解除ブッシュ⑳を図のようにレバーハンドル㉑裏面の穴に差し込んだ状態で角芯棒付レバーハンドル㉒を抜き取ります。



φ24 mm穴が開いている場合は、錠①にφ24 リング②③を取り付け、25 mm幅フロント板を使用します。